

**東京都立新島高等学校 学習指導員 募集要項**

項 目	内 容
職 名	学習指導員
任用根拠	令和 8 年度学力向上推進校における学習指導員（外部指導員）
任用期間	採用日から令和 9 年 3 月 3 1 日まで 採用開始日は相談に応じます。
勤務職場	東京都立新島高等学校
職務内容	生徒の基礎学力（国・数・英）向上のため、放課後および長期休業期間を利用して <b>個に応じた学習計画および学習指導</b> をおこなう。
応募資格・ 求められる 能力	<p>1 「基礎学力向上のための指導」の意義を理解し、校長の指揮命令の下、教職員との連携を図りながら職務を遂行する資質・能力があり、小学校高学年から中学校 3 年生の（国・数・英）の指導ができる方。</p> <p>2 次の(1)から(5)に示す欠格事由の全てに該当しない者</p> <p>(1) 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受けることがなくなるまでの者</p> <p>(2) 東京都職員として懲戒免職の処分を受け、当該処分の日から 2 年を経過しない者</p> <p>(3) 人事委員会又は公平委員会の委員の職にあつて、地方公務員法第 60 条から第 63 条までに規定する罪を犯し刑に処せられた者</p> <p>(4) 日本国憲法施行の日以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者</p> <p>(5) 民法の一部を改正する法律（平成 11 年法律第 149 号）附則第 3 条第 3 項の規定により従前の例によることとされる準禁治産者</p>
勤務時間	<p>令和 9 年 3 月 3 1 日まで 週 1 回から 2 回程度。</p> <p>1 5 時から 1 7 時 3 0 分の間で 6 0 分～ 9 0 分 （時間帯は変更する可能性があります）</p> <p>原則として平日 1 時間から 2 時間、 長期休業中 4 時間以内</p>
報酬額	時間額 2, 5 0 0 円 （講師人数によりますが、一人あたり 4 0 ～ 8 0 時間程度の任用を予定します）
特記事項	<p>本業務へ従事するに当たっては、学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律（令和 6 年法律第 69 号。以下「子ども性暴力防止法」といいます。）に基づき、特定性犯罪の前科の有無を確認するための犯罪事実確認が必要となります。</p> <p>特定性犯罪の前科がある場合（特定性犯罪事実該当者の場合）は、子ども性暴力防止法に基づき、本業務に従事させないこと等の措置を講じる必要があるため、任用条件の一つとして、特定性犯罪の前科がないことを求めることとしています。</p> <p>このため、予め、選考過程において、書面や面接等により、特定性犯罪の前科の有無を確認します。</p> <p>※「特定性犯罪」、「特定性犯罪事実該当者」の内容は別添参照条文をご参照ください。</p>

問い合わせ	東京都立新島高等学校 電 話 5-0091 担当者 副校長 持丸裕紀 教務主任 勝家甫
-------	---

○上記については、制度改正等に伴い変更となる場合があります。

別添（参照条文）

	<p>学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律（令和6年法律第69号）（抄）</p> <p>（定義）</p> <p>第二条（略）</p> <p>7 この法律において「特定性犯罪」とは、次に掲げる罪をいう。</p> <p>一 刑法（明治四十年法律第四十五号）第七十六条、第七十七条、第七十九条から第八十二条まで、第二百四十一条第一項若しくは第三項又は第二百四十三条（同項の罪に係る部分に限る。）の罪</p> <p>二 盗犯等の防止及び処分に関する法律（昭和五年法律第九号）第四条の罪（刑法第二百四十一条第一項の罪を犯す行為に係るものに限る。）</p> <p>三 児童福祉法第六十条第一項の罪</p> <p>四 児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律（平成十一年法律第五十二号）第四条から第八条までの罪</p> <p>五 性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律（令和五年法律第六十七号）第二条から第六条までの罪</p> <p>六 都道府県の条例で定める罪であつて、次のイからニまでに掲げる行為のいずれかを罰するものとして政令で定めるもの</p> <p>イ みだりに人の身体の一部に接触する行為</p> <p>ロ 正当な理由がなくて、人の通常衣服で隠されている下着若しくは身体をのぞき見し、若しくは写真機その他の機器（以下このロにおいて「写真機等」という。）を用いて撮影し、又は当該下着若しくは身体を撮影する目的で写真機等を差し向け、若しくは設置する行為</p> <p>ハ みだりに卑わいな言動をする行為（イ又はロに掲げるものを除く。）</p> <p>ニ 児童と性交し、又は児童に対しわいせつな行為をする行為</p> <p>8 この法律において「特定性犯罪事実該当者」とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。</p> <p>一 特定性犯罪について拘禁刑を言い渡す裁判が確定した者（その刑の全部の執行猶予の言渡しを受けた者（当該執行猶予の言渡しが取り消された者を除く。次号において「執行猶予者」という。）を除く。）であつて、その刑の執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から起算して二十年を経過しないもの</p> <p>二 特定性犯罪について拘禁刑を言い渡す裁判が確定した者のうち執行猶予者であつて、当該裁判が確定した日から起算して十年を経過しないもの</p> <p>三 特定性犯罪について罰金を言い渡す裁判が確定した者であつて、その刑の執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から起算して十年を経過しないもの</p> <p>附 則</p> <p>（改正前の刑法に規定する罪についてのこの法律の適用関係）</p> <p>第二条 第二条第七項（第一号に係る部分に限る。）の規定の適用については、次に掲げる罪は、同号</p>
--	---

に掲げる罪とみなす。

一 刑法の一部を改正する法律（平成二十九年法律第七十二号。次項において「刑法一部改正法」という。）による改正前の刑法第七十八条の二、第八十一条第三項若しくは第二百四十一条の罪又はこれらの罪の未遂罪

二 刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律（令和五年法律第六十六号）第一条の規定による改正前の刑法第七十六条から第七十八条までの罪又はこれらの罪の未遂罪

2 第二条第七項（第二号に係る部分に限る。）の規定の適用については、刑法一部改正法附則第三条の規定による改正前の盗犯等の防止及び処分に関する法律第四条の罪（刑法一部改正法による改正前の刑法第二百四十一条前段の罪又はその未遂罪を犯す行為に係るものに限る。）は、同号に掲げる罪とみなす。

（懲役を言い渡す裁判についてのこの法律の適用関係）

第三条 第二条第八項（第一号及び第二号に係る部分に限る。）及び第三十四条第二項（第一号並びに第二号ロ及びホに係る部分に限る。）の規定の適用については、刑法等の一部を改正する法律（令和四年法律第六十七号）第二条の規定による改正前の刑法第十二条に規定する懲役又はその全部の執行猶予を言い渡す裁判は、拘禁刑又はその全部の執行猶予を言い渡す裁判とみなす。

※第2条第7項第6号の罪は、学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律施行令第2条及び附則第2項に掲げる条例（各都道府県のいわゆる迷惑防止条例及び青少年健全育成条例）で定める又は定められていた罪であって、同号イからニまでに掲げる行為のいずれかを罰するものをいう。